



## 平成24年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成23年8月5日

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社  
 コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役  
 四半期報告書提出予定日 平成23年8月11日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 炭井 孝志  
 (氏名) 村田 隆

TEL 03-5962-7777

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	12,476	1.1	340	54.1	344	53.2	151	62.1
23年3月期第1四半期	12,612	2.6	742	33.8	736	38.6	399	30.5

(注) 包括利益 24年3月期第1四半期 154百万円 ( %) 23年3月期第1四半期 347百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	10.67	
23年3月期第1四半期	31.38	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	30,325	12,581	41.5
23年3月期	30,753	12,711	41.3

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 12,581百万円 23年3月期 12,711百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期		0.00		20.00	20.00
24年3月期					
24年3月期(予想)		0.00		15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	26,000	2.2	900	41.1	800	46.4	370	55.0	26.04
通期	52,400	3.5	2,150	22.5	1,900	29.1	900	31.8	63.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
詳細は、[添付資料] 4 ページ「サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	14,211,000 株	23年3月期	14,211,000 株
期末自己株式数	24年3月期1Q	91 株	23年3月期	91 株
期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	14,210,909 株	23年3月期1Q	12,731,487 株

#### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は実施中であります。

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、当第1四半期決算短信(添付資料) 4 ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
(4) 追加情報 .....	4
3. 四半期連結財務諸表等 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(4) セグメント情報等 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日）におけるわが国の経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災と原子力発電所の事故による電力供給問題により、企業活動に大きな混乱が見られましたが、被災地における生産拠点の操業再開や物流網の回復に伴い、企業活動は正常化に向けての回復ペースを加速させております。また個人消費につきましても、生活防衛意識の高まりや各種イベントの中止などにより落ち込みが見られましたが、自粛ムードが和らぐにつれて回復基調に転じております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、平成22年3月期よりスタートさせました中期経営計画『KENKO Victory ROAD 2011 (KVR2011)』は最終年度を迎え、目標の完全達成に向けて推進しております。また当社グループの事業戦略を、「新たな成長を目指して、新しい『ケンコースタイル』を創る」とし、5つの具体的な方向性を掲げております。

## ① サラダから総菜へ、業域を拡大する

従来の「サラダ」という切り口から、「総菜」に関する事業全体へ業域の拡大を目指す。

## ② マヨネーズ・ドレッシングからソースへ、業域を拡大する

「マヨネーズ・ドレッシング」という切り口から「ソース」まで枠を拡げ、ソース類製造業のポジションを確立する。

## ③ タマゴ加工品は殻付きタマゴからタマゴ製品まで、事業範囲を拡大する

殻付きタマゴからタマゴ加工品まで、一貫したシステムを作り、それぞれの段階で、こだわった商品と効率的な生産を目指す。

## ④ 業務用メーカーから市場演出型企業へ存在感をアップする

従来の縁の下の力持ちという存在から、様々な食スタイル・食シーンを演出できる企業づくりを目指す。まず「サラダカフェ」を活用し、積極的な提案を進める。

## ⑤ 海外事業の拡大

海外事業のうち中国事業に関しては、マヨネーズ・ドレッシング類を生産する杭州新工場の稼働準備を進めており、東莞のサラダ工場とリンクさせながら、中国市場への浸透を図る。

これらの事業戦略の方向性実現に向けての取り組みとして、東京本社内のシステム・キッチンを改装して、「Cooking Labo TOKYO」を開設し、お客様を積極的に招聘しております。お客様との共同試作を通じて、情報交換や情報発信の場として活用しております。またサラダカフェ事業につきましても、当第1四半期連結累計期間において皿多屋ブランドで大阪市阿倍野区へも出店を行い、トータル13店舗となり、サラダカフェ事業の売上高は前期を大きく上回って進捗しております。

当第1四半期連結累計期間における売上高及び利益面の概況は以下のとおりであります。

## ①売上高は5月度から前年同四半期の売上高を上回る水準で進捗

売上高につきましては、4月度は震災の影響を受け、消費者が外食や旅行を控えるなど需要が弱含みで推移いたしました。その後、自粛ムードが和らいだ事などを背景に回復基調に転じており、5月度以降においては、前年同四半期の売上高を上回る水準で進捗しております。

## ②利益面は震災の影響を吸収し、利益計画通りに進捗

利益面につきましては、連結営業利益、経常利益ともに前年同四半期対比で減益であります。これは平成24年3月期の利益計画策定時点から想定されておりました穀物相場をはじめとする原料価格高騰が主な要因であります。このマイナス要因を吸収する為に、製造部門におけるコストダウンをはじめ全部門において徹底的に経費削減を進めるとともに、企業努力のみでは吸収しきれない部分に関しましては、価格改定を進めさせていただいております。当第1四半期連結累計期間の業績は、震災の影響を吸収し、平成23年5月10日に公表しました連結業績予想に対し予定どおり進捗いたしました。

当第1四半期連結累計期間における売上高は12,476百万円（前年同四半期比136百万円の減少、1.1%減）、連結営業利益は340百万円（前年同四半期比401百万円の減少、54.1%減）、連結経常利益は344百万円（前年同四半期比391百万円の減少、53.2%減）、連結四半期純利益は151百万円（前年同四半期比247百万円の減少、62.1%減）となりました。

各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

#### 調味料・加工食品事業

＜調理加工食品＞につきましては、従来からの主力商品でありますポテトサラダ、ゴボウサラダ、ツナサラダ等に加えて、春雨、パンプキン、豆等の素材を活かした商品が、前期に引き続き製パン・外食向け等で伸張しており、次の主力商品へ向けて着実に育成しております。

＜マヨネーズ・ドレッシング類＞は、量販店向けに1kgや500g形態のマヨネーズが伸張し、また、大型形態のドラムやタンク、10kg形態のマヨネーズも伸張いたしました。ドレッシングも用途に合わせた形態戦略による新規採用や、前期に設備投資を実施しました西日本工場の最新ライン製造のドレッシングを拡売してまいりましたが、当社を取り巻く環境の変化に起因する要因により数量は微減となりました。

＜タマゴ加工品＞は、製パン向け及びコンビニエンスストア向けのタマゴサラダの新規採用、弁当・すし用の厚焼き卵がコンビニエンスストアで採用されたことにより数量が増加いたしました。サンドウィッチ用のタマゴサラダが減少したことにより、前期並みの数量となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は10,463百万円、セグメント利益は331百万円となりました。

#### 総菜関連事業等

主要な原料である卵や野菜類の価格高騰に対し、生産拠点の統合をはじめとしたコストダウンや経費削減対策の実施、また収益構造の分析に基づく商品政策を実施して参りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は1,784百万円、セグメント利益は16百万円となりました。

また、前連結会計年度に実施いたしました東京証券取引所市場第二部上場及び公募増資により、株主数も従来の約700名の水準から4,000名超となり、平成23年6月24日に開催いたしました第54回定時株主総会におきましても、多くの株主の皆様にご出席いただきました。なお、当日の定時株主総会におきましてご承認いただきましたとおり、取締役を10名へ増強させていただきました。この新経営体制は若い世代からの抜擢を行っており、次の世代による経営体制に向けて基盤固めを進めるとともに、当社グループの今後の更なる飛躍に向けての取り組みを強化するものであります。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、30,325百万円（前連結会計年度比428百万円の減少、1.4%減）となりました。これは、主として現金及び預金が564百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、17,743百万円（前連結会計年度比299百万円の減少、1.7%減）となりました。これは、主として未払法人税等が396百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、12,581百万円（前連結会計年度比129百万円の減少、1.0%減）となりました。

(自己資本比率)

当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は41.5%（前連結会計年度比0.2ポイント増）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年5月10日に公表しました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じる方法等により計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表等

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,557	4,993
受取手形及び売掛金	8,269	8,223
商品及び製品	1,135	1,223
仕掛品	13	19
原材料及び貯蔵品	720	664
繰延税金資産	328	245
その他	179	262
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	16,203	15,632
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,709	4,690
機械装置及び運搬具(純額)	3,101	3,049
土地	3,879	3,879
その他(純額)	370	375
有形固定資産合計	12,060	11,995
無形固定資産		
無形固定資産合計	266	287
投資その他の資産		
繰延税金資産	256	244
その他	1,996	2,194
貸倒引当金	△29	△29
投資その他の資産合計	2,222	2,410
固定資産合計	14,550	14,692
資産合計	30,753	30,325
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,103	6,482
短期借入金	1,410	1,960
1年内返済予定の長期借入金	1,159	981
未払法人税等	491	94
その他の引当金	511	298
その他	3,605	3,458
流動負債合計	13,281	13,276
固定負債		
長期借入金	2,670	2,512
退職給付引当金	439	464
その他の引当金	163	125
その他	1,488	1,364
固定負債合計	4,760	4,467
負債合計	18,042	17,743

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	8,043	7,911
自己株式	△0	△0
株主資本合計	12,672	12,540
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50	53
繰延ヘッジ損益	△2	△1
為替換算調整勘定	△9	△10
その他の包括利益累計額合計	38	41
純資産合計	12,711	12,581
負債純資産合計	30,753	30,325



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	12,612	12,476
売上原価	9,000	9,288
売上総利益	3,612	3,187
販売費及び一般管理費	2,869	2,846
営業利益	742	340
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	10	9
その他	25	24
営業外収益合計	36	33
営業外費用		
支払利息	32	26
その他	9	4
営業外費用合計	42	30
経常利益	736	344
特別損失		
固定資産除却損	0	10
投資有価証券評価損	28	0
事業整理損失	—	8
災害による損失	—	7
その他	9	—
特別損失合計	39	26
税金等調整前四半期純利益	696	317
法人税、住民税及び事業税	186	78
法人税等調整額	111	87
法人税等合計	297	166
少数株主損益調整前四半期純利益	399	151
四半期純利益	399	151

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	399	151
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△53	3
繰延ヘッジ損益	1	0
為替換算調整勘定	0	—
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△1
その他の包括利益合計	△51	2
四半期包括利益	347	154
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	347	154
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	10,487	1,907	12,395	217	12,612	—	12,612
セグメント間の内部売上高又は 振替高	118	1,813	1,931	—	1,931	△1,931	—
計	10,606	3,720	14,326	217	14,544	△1,931	12,612
セグメント利益	641	103	744	4	748	△12	736

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△12百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	10,463	1,784	12,247	228	12,476	—	12,476
セグメント間の内部売上高又は 振替高	124	2,018	2,143	—	2,143	△2,143	—
計	10,588	3,802	14,391	228	14,619	△2,143	12,476
セグメント利益	331	16	347	△0	347	△3	344

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△3百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。